

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 1月 1日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271401400		
法人名	株式会社 日進開発		
事業所名	グループホーム 「くにみの里」		
所在地	〒859-1325 長崎県雲仙市国見町多比良戊 1449-416		
自己評価作成日	H25年11月21日	評価結果市町受理日	H26年1月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商 工会議所一階
訪問調査日	平成 25年 12月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

市街地から離れ、静かで落ち着いた場所であり、南は有明海、北は普賢岳を見ることが出来る景色にも恵まれた環境で過ごす事が出来ます。  
低料金で質の高いサービスの提供に努め「入居者の皆様は人生の先輩である。」ということ念頭に置き、尊厳を守った柔軟な声かけ、対応に努めさせていただいております。  
施設独自の委員会(接遇マナー、事故対策、感染対策、車両管理、美化環境管理、拘束ゼロ)を設置し、より良い質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

法人には通所施設や別事業所が複数あり、社内研修や施設独自の委員会設置など研修の機会も多く、専門知識の習得や情報交換の機会があり職員のスキルアップの場が多く準備されている。ホーム職員や通所職員からのそれぞれの観点で意見交換ができる事は、職員の知識の幅を広げることができているほか、入居者の生活への安心にも繋がっている。専門知識と経験が豊富な管理者のもと職員の屈託ない意見が運営に反映され、入居者が安らぎのある生活を送ることができている様子も感じる事ができた。職員と入居者が明るい笑顔で会話を楽しむ姿から入居者と職員の関係性の良さも窺われ、管理者がより一層ホームを良くしていきたいと前向きに取り組まれている姿から、今後ますますの期待が持てる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝理念を唱和してから仕事を行っており、一人一人理解し日々の実践に取り組んでいる。	法人の基本理念をもとに理念をより具現化するために職員間で話し合い「あなたの嬉しいは私も嬉しい」の目標を掲げ、挨拶や感謝の気持ちを持って入居者と接するように取り組まれている。入居者の表情から理念の浸透のよさが窺われた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	年一回の里まつりに地域住民の参加を得ている。又中学生の福祉体験学習の受け入れをしている。民生委員、自治会、自治体等の参加を得て、推進会議等で入居者の顔を覚えて頂いている。	地域住民の介護相談を事務所が窓口となっており、困っている人にはいつでも対応していく姿勢がある。例年地域の中学生の福祉体験を受け入れており世代間交流をきっかけに地域とホームの双方理解のきっかけとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験学習や介護研修の受け入れを行っている。介護の相談所として窓口を開いており、地域の高齢者支援が出来る体制を取っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、状態報告や行事報告等おこなっており、毎回相談や意見を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議では利用者の状況や事故報告等透明性がはかられており、実際に食事や避難訓練の実施状況をみて頂き届託のない意見を頂いている。管理者は言いにくいことこそ言って頂きたいとの思いで参加者に問いかけ、運営に反映させる姿勢を持っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方に運営推進会議の参加をして頂き、情報交換を行うなど協力体制を作っている。	管理者は島原半島グループホーム連絡協議会の副会長を担っており、ホームの現状を踏まえながら地域の事業所全体の問題として保険者に繋げ、事業所全体が向上していくように日々尽力されている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を設けており、身体拘束や言葉の拘束の無いよう努めている。やむを得ない場合は家族に説明をし同意書をもらい、ミーティングの度に検討している。	身体拘束ゼロ委員会を立ちあげ、身体拘束のない介護を目指し具体的に言葉の使い方や入居者への接し方を各々で考え、問題行動が起きる前触れを早めにキャッチし対応等を工夫するなど取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待防止に関し、理解浸透に努めている。言葉かけも虐待にならないよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に権利擁護の制度について学び、資料は職員がいつでも目を通せる場所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分な説明を行い、解約又は、改定時は文書を作成して、一人一人十分な説明をし、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置しており意見要望にはすばやく対応し、ケアの向上に取り組んでいる。	ホーム便りには入居者担当職員より日頃の様子をそれぞれ書き記して、発送しているほか、家族が遠慮して意見を言にくい事を考慮し、居室にて本音を引き出すような言葉かけを行っている。頂いた意見については個人記録や申し送りノートを通して職員に周知し、統一した対応に努められている。	積極的に家族と関わりコミュニケーションを図る取り組みはなされているが、運営推進会議や家族アンケートの状況からホームの意見集約が不足している状況があり、更に利用者家族の満足度がより高まるよう、家族の心情を察しながら意見や思いを表出できるような関係作りを検討されることを今後期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務日誌にて職員の意見や提案を報告している。	日頃から管理者は職員が感じた事や思ったことを一緒に考えていきたいとしており、入居者への対応や言葉の使い方など提案された意見はその都度職員間でも話し合い、対応策を加味しながら実践に繋がられている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	業務日誌等で意見を上げ報告している。		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修案内を常に掲示し、職員一人一人に研修に行くよう勧めている。また資格所得のための協力をしている。		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	地域の全ての施設が参加できる会議（国見ケア会議）へ出席し情報交換をし、ケア向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	事前面談で生活状態を把握し、求めている事や不安な事などに耳を傾けながら信頼関係を築いている。		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	面会時これまでの家族の苦労や困っている事や不安な事や今までのサービス利用状況等聞き取りを行い関係づくりをしている。		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人や家族より状況を聞き取り支援の提案、相談をし、必要なサービスに繋げるようにしている。		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見や尊厳を尊重しながら職員が、生活支援すると共に、入居者自身も家事などに参加できる環境を作るよう努めている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を面会時や電話にて報告、相談すると共に、月に一度発行の里だよりも状況に記載し、家族に今どういう状態かわかるようにしている。また面会に来て頂けるよう家族への声かけや、受診など職員と一緒に同行して頂いたりして、家族と共に入居者を支える支援をしている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの店や散髪屋などへ行けるよう支援しており、知人や友人との交流も支援している。	管理者は、利用者と家族のかけ橋になるべく、家族が面会に来やすくなるように面会時間を提案したり電話の取り次ぎを行ったりと入居者の日頃の表情や言葉のなかから寂しさに寄り添い対応されている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りを提供し、利用者同士の関係が上手くいくよう支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された方も見舞いに行ったり、退院後の受け入れ先等の相談をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人より日々の関わり合いの中で情報収集したり、家族からも情報収集し思いや意向の把握に努めている。	日頃の関わりの中で入居者が自然に発する言葉に耳を傾け、また職員からの声かけを多くすることで本人の言葉を引き出し、その方にとって何が生きがいなのか常に意識を持って接しておられることが窺われた。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から些細な事でも聞き取り、日々情報収集に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事より出来ることに注目し日々の生活リズムや心身状態を全員が周知出来るよう記録している。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族と関わり、思いや意見を取り入れて計画に反映させ作成している。	利用者個々の担当職員が原案を作る際に入居者の状況を話し合い、総合的な観点から本人が有する力を発揮できるような計画の立案に繋がっている。実施状況も個人記録に詳細に残され、適切な評価と、次回計画の材料として生かされている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は個別の記録に記載し、全職員が確認できるようにしており、モニタリングに生かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間を見つけてはデイサービスなどを訪問したりなど切れ目のないサービスをしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からのなじみの病院やなじみの店などへ行けるよう支援している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医での医療を継続し、症状によっては家族と同行受診を行っている。また往診に来てもらっている方もいる。	毎日の個人記録には体調変化の推移が表情と共に記録され、また医療連携の点においては受診ノートを作り、入居者の受診時の状況や医師からの指示が記録され職員が入居者の身体状況を周知伝達しやすいものとなっている。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回の看護師訪問にて状態の報告相談をしている。特変時にはすぐに連絡相談をし、対応の指示を受けている。		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師と情報交換しながら早期退院が出来るように努めている		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえ、医師・職員が連携をとり、安心して納得した終末期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	家族の希望があれば看取りを受け入れる方針である。随時本人の身体状況をみながら主治医や家族に相談し、また協力を得ながら安心してその時を迎える事ができるよう支援されている。重度化に伴う勉強会の機会を持ち医療的な知識の習得にも努められている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受け応急手当の研修を行っている。また夜間緊急時のマニュアルを作成しており、個々に連絡がつくように居室に掲示している。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し日中と夜間を想定し利用者と共に避難訓練を行っている。地域の協力体制については自治会をお願いしている。緊急持ち出し袋を作り、個人情報や既往歴写真が記載されており、緊急時すぐに持ち出し可能にしている。	年に2回昼夜想定で火災による避難訓練を実施している。実際に腰窓から入居者を避難させ個々の誘導方法を再確認した。職員から有事の際の対策として全棟の入居者を職員が把握できた方がよいとの意見をうけ合同行事を行い関わりを深めていく取り組みに繋がった。	現在定期的な避難訓練の実施はできているが、昨今の自然災害に対する意識や対策に希薄さを感じられた。ますます日頃からの防災意識の向上に取り組まれ更なる防災意識を強固にされていくことを今後期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけ、言葉かけには十分配慮している。	入居者には人生の先輩として謙虚な気持ちで関わるように日頃から意識を持って接しておられる。言葉の掛け方には特に注意を払い、態度や口調に気になった際には場をかえて注意し入居者の人格を傷付けないよう接するようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が話せる関係を作り、自己決定を促す声かけをしている。うまく意思表示が出来ない場合であっても、表情等を注意深く観察しキャッチ出来るよう努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に何をしたいか尋ね希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が以前より着て頂いていた洋服など、毎日本人が選んで着ている。馴染みの床屋に行かれるか二ヶ月に一度の理容を選ばれたりしている。家族に散髪を頼まれる時も電話等行い支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食べたい物を聞いて献立を立てたり、簡単な調理を手伝って頂いたりしている。また食事が楽しくなるような会話をしながら一緒に食事をしている	季節の食材を取り入れ、彩りよく盛り付けがなされた献立には入居者のリクエストも多く採用され入居者の楽しみもなっている。特に誕生日には手作りおやつを取り入れ入居者と共に飾り付けを楽しむなど意欲的に取り組まれている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食べやすい形態の工夫をして提供している。また食事、水分チェック表を活用しながら一人一人の状態を把握し、確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には食後の口腔ケアの言葉かけを行い、出来ない方には口腔ケアの準備や介助をしたりと本人に合ったケアをしている。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意の無い入居者にも時間を見計らって誘導している。	入居者の仕草を見落とさないように入居者個々の排泄パターンを把握しながらトイレでの排泄を促すようにされている。日頃からバットの大きさの見直しや当て方を工夫してなるべく失敗しないよう声かけ誘導されている。

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 飲食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動やレクレーション に体操を入れている。水分 補給は摂取が少ない方には ゼリーを出したりしてい る。また薬による排便コン トロールを行っている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて入浴を楽しめるように、職員の 都合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る	曜日等は決めておらず、利 用者の体調気に合わせて 入浴実施をしている	本人が希望すれば毎日の入浴 も可能である。受診の都合や 体調によって入浴日の検討が なされている。個々の希望や 体への負担を考慮し湯温やタ イミングを考慮し寛いで入浴 できるよう支援されている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心して 気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し 生活リズムを整えるよう努め ている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確 認に努めている	入居者の薬の処方、効能、 副作用の説明をお薬手帳に はさみ全職員が分かるよう 徹底している。薬が変更に なった時は受診ノートにも 必ず書いて全職員が分かる ようにしている。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や地域の行事参加等楽しみ事を入居者の方や家族と相談しながら行っている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	行事などで外出したり、家族と話し合いながら自宅へ帰られたり、行きたい所に行けるよう本人の希望にそった支援をしている。	日頃から食材やおやつを購入に入居者と共に出かけ、買い物を楽しんでいる。個別に日用品の買い物に出かける事も可能である。敷地内に通所施設が併設されているため、友人の面会や散歩の支援で気分転換が図られている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に相談しながら、買い物に行ける機会を作りお金を所持したり、使えたり出来るよう支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時はいつでもかけられるよう支援している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は一体的な造りで全てが視界に入り落ち着いてくつろげる。季節感のある掲示物をしたり、居間から見える庭には季節の花を植えている。	職員により手入れが行き届いたフローアには清潔感が感じられ、また入居者の手作りの作品が並び、入居者が自然と集まり寛ぎながら会話を楽しむことができるよう室温やあたたかな雰囲気づくりへの心配りが感じられた。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは自分の好きな所に座られたり、居室は個室なので一人で好きに過ごせたり、気の合う者同士が互いに居室に訪問され自由に行き来ができる支援をしている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していたものを持ち込まれ入居者の個性に合わせるよう配慮している。	入居者の居室には使い慣れた家具や趣味の道具、家族の写真が持ち込まれ、入居者の安らぎの空間が作られている。自宅で使っていたポットや急須、小型冷蔵庫などその方の生活が継続できている様子が窺われた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方が場所等を覚えるまでは、目印をつけるなどして対応している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人理念を理解しており、日々の実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事への参加と、ホームの行事への招待など、イベントを通しての交流を積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談所として窓口を開いており、地域の高齢者支援が出来る体制を取っている。また福祉体験学習や介護研修の受け入れを行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催毎にくにみの里の情報を報告。取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらいサービスの向上へと繋いでいる。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方に運営推進会議への参加してもらうことにより、情報交換を行うなど協力体制を作っている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束0を目指している。不穏を察知したらさりげなく声かけし、見守りを兼ねて一緒に行動するなど監視ととられない配慮をし、自由な暮らしを支えている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング時に虐待防止に関し、理解浸透に努めている。言葉かけも虐待にならないよう注意を払っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は権利擁護事業を活用しておられる方はないが、資料を用意し、職員の勉強や家族からの相談に活かせるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時には十分な説明を行い、解約又は、改定時は文書を作成して、一人一人十分な説明をし、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関には意見箱を設置しており意見要望にはすばやく対応し、ケアの向上に取り組んでいる。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の業務日誌にて職員の意見や提案を報告している。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>業務日誌へ職員の意見や状況を記載し報告するなどし、職場環境や条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内を常に掲示し、職員一人一人に研修に行くよう勧めている。また資格所得のための協力をしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域の全ての施設が参加できる会議（国見ケア会議）へ出席し情報交換をし、ケア向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談で生活状態を把握し、求めている事や不安な事などに耳を傾けながら信頼関係を築いている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時これまでの家族の苦労や困っている事や不安な事や今までのサービス利用状況等聞き取りを行い関係づくりをしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族より状況を聞き取り支援の提案、相談をし、必要なサービスに繋げるようにしている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見や尊厳を尊重しながら職員が生活支援すると共に、入居者自身も家事などに参加し、それに職員が支援できる環境を作るよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を面会時や電話にて報告、相談すると共に、月に一度発行の里だよりもにも状況を記載し、家族に今どういう状態かわかるようにしている。また面会に来て頂けるよう家族への声かけや、受診など職員と一緒に同行して頂いたりして、家族と共に入居者を支える支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	本人の馴染みの店や散髪屋などへ行けるよう支援しており、知人や友人との交流も支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りを提供し、利用者同士の関係が上手くいくよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された方も見舞いに行ったり、退院後の受け入れ先等の相談をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人より日々の関わり合いの中で情報収集したり、家族からも情報収集し、本人や家族の思いや意向の把握に努めている。		

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から些細な事でも聞き取りの中から感じ取り、日々情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事より出来ることに注目し日々の生活リズムや心身状態を全員が周知出来るよう記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族と関わり、思いや意見を取り入れて計画に反映させ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は個別の記録に記載し、全職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者と家族の状況に応じ必要な支援は迅速に対応し、本人家族満足して頂ける様努めている。デイサービス利用から入居された方など、友人と面会を支援するなどし、関係が途絶えないようにしている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店や美容室など馴染みの店に行ったり、施設の買い物に同行してもらおうなど共に生活している者としての生きがいを失わない支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医での医療を受けられよう家族と協力し通院介助を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回の看護師訪問にて状態の報告相談をしている。特変時にはすぐに連絡相談をし、対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師と情報交換しながら、可能な限り早期に退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえ、医師・職員が連携をとり、安心して納得した終末期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受け応急手当の研修を行っている。また夜間緊急時のマニュアルを作成しており、個々に連絡がつくように居室に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し日中と夜間を想定し利用者と共に非難訓練を行っている。地域の協力体制については自治会をお願いしている。緊急持ち出し袋を作り、個人情報や既往歴写真が記載されており、緊急時すぐに持ち出し可能にしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、さりげないケアであるように心がけ、言葉を選び、言葉かけには十分配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が話せる関係を作り、自己決定を促す声かけをしている。うまく意思表示が出来ない場合であっても、表情等を注意深く観察し気持ちをキャッチ出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の望みを、会話の中からくみとり、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が以前より着て頂いていた洋服など、毎日本人が選んで着ている。馴染みの床屋に行かれるか二ヶ月に一度の訪問理容を選ばれたりしている。家族に散髪を頼まれる時も電話等行い支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食べたい物を聞いて献立を立てたり、簡単な調理を手伝って頂いたりしている。また食事が楽しくなるような会話をしながら一緒にすごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食べやすい形態の工夫をして提供している。また食事、水分チェック表を活用しながら一人一人の状態を把握し、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には食後の口腔ケアの言葉かけを行い、出来ない方には口腔ケアの準備や介助をしたりと本人に合ったケアをしている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意の無い入居者にも時間を見計らって誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動やレクリエーションに体操を入れている。水分補給は摂取が少ない方にはゼリーを出したりしている。また薬による排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日等は決めておらず、利用者の体調気分に合わせて入浴実施をしている。基本的に日曜日は入浴日にはしていないが、入居者の体調によって代替日とすることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の処方、効能、副作用の説明をお薬手帳にはさみ全職員が分かるよう徹底している。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>外出や地域の行事参加等楽しみ事を入居者の方や家族と相談しながら行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>行事などで外出をしたり、家族の協力も得て自宅へ帰られたりと本人の希望にそった支援をしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームの買い出しに同行したり、受診の帰り道でスーパーに寄ったりするなどの買い物支援をおこなっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話をかけたい時はいつでもかけられるよう支援している。また聴力の弱い方のために、代わって通話することもある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂や居間は一体的な造りで全てが視界に入り落ち着いてくつろげる。季節感のある掲示物をしたり、居間から見える庭には季節の花を植えている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでは自分の好きな所に座られたり、居室は個室なので一人で好きに過ごせたり、入居者同士が互いに居室に訪問されるなど自由に行き来ができる支援をしている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していたものを持ち込まれ、住む場所は変わっても戸惑うことが少ないよう入居者の個性に合わせる配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方それぞれが、その人だけがわかる目印を利用し居室の間違いを無くしたり、トイレなど大きな文字の案内でわかりやすいよう対応している。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない